

## 今年1年を表す漢字は？

今年1年の世相を表す漢字が京都の清水寺で今年も発表され「金」であった。

オリンピック・パラリンピックでの日本人選手などの活躍による光を表す「金(キン)」と、政治の裏金問題などの影を表す「金(かね)」の2つの意味を示しているらしい。1955年から今年で30回目の発表を迎えたが、「金」はもう今回で5回目のことだ。

この今年の漢字は誰かが独断で決めているわけではなく、広く公募しているのはご存知だろうか。11月1日から12月9日までに寄せられた約22万通余りの応募の中から、もっとも多いおよそ1万2100票を集めた漢字は「金」であった。2位は「災」、3位は「翔」、4位は「震」とどれもが意味を感じる漢字だ。ちなみに石破総理は「謙」を選択したらしい。

さて、豊翔高等学院の今年の漢字は何がぴったりくるのかと言えば、私は悩むことなく豊翔の「翔」にしたい。全国で選ばれた3位の「翔」は、まぎれもなく大谷翔平選手の活躍への賞賛だと思うが、もちろんそれとはまったく関係なく、豊翔の「翔」は飛翔の意味合いを強く持っている。

今年1年、全てのことが先生たちのお陰で質的に前進したのは間違いない。生徒数の最高在籍数の維持はもちろんだが、京都校の開校日を増やし、生徒たちへ細やかなに寄り添う指導を模索し、文化祭は初めての豊翔単独開催で盛り上がりを見せた。京都校も大阪校も教室の雰囲気がより明るさと活気を感じるものとなったのは言うまでもない。生徒の頑張りと保護者の方のご協力、そして職員の日々の奮闘に感謝したい。

そんな中で、では私個人の漢字はどうなるのか（笑）。今年1年何をしてきたのかと想いを巡らせている。

ある雑誌の記事で読んだが、ニートなど若者が働くかないのは、「自分に合った仕事を探しているから」と言う理由を挙げる人が一番多いようだ。医師・解剖学者の養老孟子は「20歳そこそくで自分なんてわかるはずもなく、中身が空っぽだ」と怒っていた。「道に穴が空いていた。そのまま放置すると危険なので、そこを埋めてみる。目の前の穴を埋める単純なことこそ仕事と言うものだ。だから自分に合った穴が空いているわけでもなく、仕事が自分に合っていないなくて当たり前」だと彼は言う。

なるほどと思いながら、私はそんな仕事ができて来たのだろうか。不登校や発達の課題を抱えるの子どもさんを持つ親御さんに寄り添うカウンセリング相談で、私は穴を埋めるという仕事ができたのだろうか。今から15年前、「人生の最後は、人に感謝される仕事をしなさい」と病院のベッドで酸素マスクをつけながら母が私に言った。ちょうど不登校のカウンセリング相談を始めたころだ。もし母が元氣でいて今の私を少しは褒めてくれるなら、今年の私の漢字は「埋」にしたい。そして今後も「穴を埋める」仕事を続けたい。

誰かがどこかで私のことを「マザコン！」と言っている声が聞こえてきそうだ（笑）。

（丹羽 豊）